

## 特集 動き出した“交流拡大プロジェクト”

# 合宿チーム増え、大きな成果も

紋別の知名度アップや羽田・紋別直行便の利用率向上、宿泊や飲食など市内経済界への波及効果を目指す合宿誘致が実を結び出しました。今夏は箱根駅伝大会に連続出場している城西大学をはじめとする大学駅伝部が相次いで紋別入りし、自然豊かで涼しい紋別の利点を生かした練習に励みました。駅伝のほかにも水泳、武術、球技、音楽などの合宿が毎年のように紋別で行われていて、大きな成果をあげています。

市は昨年度から、交流人口の拡大を図るべく、移住促進と合宿誘致を中心とした「交流拡大プロジェクト」に取り組んでいます。

合宿に関しては、以前からオホーツク音楽祭や全日本ハンドボールチーム、北海道大学水泳部「白熊会」、イトマンスイミングスクールなどの合宿が行われており、プロジェクト始動後は、箱根駅伝を目指す大学チームが急増しました。郊外での距離走や市街地でのジョギング風景など選手を見かけられた市民の方も多いと思われます。

11月と今年7月にCDデビューを果たすなど、明るいニュースもありました。今後の活躍に期待が高まっています。

城西大学駅伝部  
「5年連続5回目目指す」

今年1月の第83回箱根駅伝で総合11位の成績を収め、5年連続5回目の出場を目指す城西大学駅伝部（平塚潤監督他選手67人）の紋別合宿が8月10日から19日までの日程で行われました。Bチームの紋別合宿は昨年に続き2回目ですが、今年には有力選手を抱えるAチームも初めて強化合宿に訪れました。



▲コムケ湖周辺コースで強化トレーニングをするAチーム

会に照準を合わせたもので、藻別や空港周辺、沼の上地区などで連日40〜45kmの走り込みを行いました。キャプテンの森田稔さん（4年）は「選

手は一人一人、箱根駅伝の出場メンバー入りなどを目標にしています。紋別合宿でレベルアップを図りたい」と話していました。

箱根駅伝では、総合10位までのチームは翌年の大会に無条件で参加できますが、11位以下のチームは予選会を通過しなければなりません。第84回大会へ向けた予選会は今年10月20日に行われます。

### 明治大学体育会競走部 出場50回・優勝7回の古豪

今年初めて紋別での合宿を行ったのが明治大学体育会競走部（遠藤和生監督）。Aチーム21人と監督、スタッフ6人の合計27人が来紋。8月20日から29日まで10日間の日程で、連日50kmほどの走り込みを流しました。

明治大学は、箱根駅伝に第1回大会から出場し、出場50回、総合優勝7回を誇る古豪。ここ3年は連続して出場を果たし、今年には16位の成績でした。

22日には、明治大学卒業生でつくる校友会北見支部紋別支部会が歓迎会を開き、選手たちを激励しました。西弘美

駅伝監督はこの席で「来年の箱根駅伝では、紋別での合宿があったからこそといえる成果をもって皆さんの応援に込めたい」と力強く語りました。



▶箱根での活躍を誓った北見市出身の長内啓祐キャプテン

### 拓殖大学陸上競技部 「3年ぶり32回目出場を」

箱根駅伝へ3年ぶり32回目の出場を目指す、拓殖大学陸上競技部の紋別合宿が9月4日から10日まで行われました。拓殖大学は昨年と一昨年の箱根駅伝予選会で、9位までの本選出場枠に1歩届かない10位の結果。特に昨年は「あと1秒」という無念の敗退だっただけに、「今年こそ」という強い思いがにじみ出ていました。

合宿に参加したのは選手23人と監督、スタッフ5人の合計28人。初日の4日夜には、



拓殖大学のOBでつくる学友会オホーツク支部が歓迎会を開き、選手たちを激励しました。

久野雅浩主将は「北海道は湿気がなくて走りやすい。紋別ではスピードやスタミナを中心に調整します。こんな素晴らしい食事を用意してくれた紋別の皆さんの気持ちに込めたい」と雪辱を誓っていました。



▲学友会支部が選手たちを歓迎しました

### 北海道大学 剣道部 全国大会での躍進を目指す

北海道大学の体育系公認サークル・剣道（たいどう）部28人は、8月28日から9月1日まで、武徳殿などで夏合宿

を行いました。北大のサークルでは水泳部「白熊会」が毎年5月の連休に紋別合宿を行っています。剣道部は初めてです。

剣道は武術の一種で、空手や柔道、少林拳法と似た側面がありますが、後方宙返りなどアクロバティックな要素もあるのが特徴。大会では、形の完成度を競う法形競技と、防具をつけて対戦する実戦競技などがあり、北大は昨年10月の第40回全国学生大会で総合3位に入賞。今年さらなる躍進を目指しています。

同部の大村吉人主将（3年）は初めて訪れた紋別について「さわやかな気候で、大いに気に入りました」と話していました。



▶武徳殿で練習に励む北大剣道部



▲紋別少年団と合同合宿を行ったイトマン

### 水泳名門のイトマン 6年目の紋別交流合宿

水泳の名門「イトマン・スイミング・スクール・グループ」の北海道紋別交流合宿が8月12日から16日まで5日間、オホーツク健康プール「ステア」を舞台に繰り広げられました。

交流合宿は今シーズンで6回目。イトマン側の参加選手は25人。全国大会に手が届きそうな逸材ばかりで、11月に大阪で開かれるイトマン招待全国大会への進出を目指し「もう少し記録を伸ばしたい」と目を輝かせて特訓に励みました。地元紋別から参加した6

人の選手も、大きな刺激を受けたようです。指導に当たったイトマン新琴似の熊谷昌之コーチは「札幌と違って夜が涼しいのが紋別の良いところ。食事も最高ですね」と紋別合宿のメリット

を語っていました。昨年年度までのオホーツク音楽祭in紋別をリニューアルしたもので、従来以上に合宿色を強めました。最終日の8月3日には講師陣が中心となるコンサートを開き、地元クラシック音楽ファンの期待にも応えました。選ばされた音楽学生7人もフレッシュな演奏を聴かせました。

また、今年は紋別の子どもたちを対象にしたピアノ教室も開かれ、小中学生9人がプロのピアニストからレッスンを受けるなど、新たな取り組みも始まりました。

### 音楽祭をリニューアル オホーツク紋別音楽セミナー

ヴァイオリンやヴィオラを学ぶ東京芸術大学など首都圏の音楽学生たちに、涼しい紋



▲講師の1人は東京芸術大学名誉教授の普沼準二さん